

教科		地歴公民		科目	日本史B	単位数	4単位
学年	2年	科	普通科		専攻・コース	大学進学コース	
教科書		山川出版社 詳説 日本史B			副教材	帝国書院 図説 日本史通覧	
学習到達目標		我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
評価の観点		<p>◇平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断する。</p> <p>◇授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とする。</p> <p>◇課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とする。</p>					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標		備考	
前	前期 第1回 定期試験	第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権		＊人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ＊大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ＊集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 ＊地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ＊ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ＊古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。			
		前期 第2回 定期	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道		＊ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ＊律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ＊律令に基づく国内統治体制について理解する。		

期	試験	3. 平城京の時代 4. 天平文化	<p>*律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。</p> <p>*平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する</p> <p>*天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。</p>	
	前期末試験	5. 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士	<p>*平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。</p> <p>*藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。</p> <p>*大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>*律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</p> <p>*地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。</p>	
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後	後期第1回定期試験	第II部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会	<p>*院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>*政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>*鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>*承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。</p> <p>*武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p>	
	後期第2回定期	4. 蒙古襲来と幕府の衰退 5. 鎌倉文化	<p>*蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>*庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p>	

期	試験	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	*南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 *琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。
	学年末試験	2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	*庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 *諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 *武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 *庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 *応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。